

短歌・俳句で綴る

御代田の四季

「短歌の会」と「御代田風の道俳句会」から寄せられた代表作です。

短歌

八重桜満開に咲くこの朝娘は突然の義母の死を告ぐ

土屋 昭子

味噌仕入れせむか止むるか悩みをり身に持つ力おぼつかなくに

前田 悦子

牡丹のつぼみの赤くふくらめり昨日の雨を身に吸ひよせて

大井 藤子

俳句

当期雑詠

篤農の汗と工夫の千枚田

足立 淳

猫と会ふ一茶の目線雨蛙

澤田 勝彦

釈迦阿弥陀縁の深さや御開帳

小林阿ぐり

御開帳どっと歓声黄金仏

清水 慶子

「一茶さん」応へさうなり花の庵

高山すみえ

水芭蕉奥へ奥へと誘はるる

内堀 隆久

サークル さあ来る。24

御代田町囲碁同好会

奈良国立博物館には、1300年前の聖武天皇遺品の囲碁用具が、国宝として保管されています。戦国時代の武将は碁を打ちながら、戦いの策を練ったともいわれ、日本古来の文化である囲碁を後世に伝えること、また高齢者には健康保持に役立ち、学生・青少年には論理的思考力を養うのに大変良いとされています。御代田町囲碁同好会は、一昨年の4月に発足しました。まだ日も浅く、成果はこれからですが、熱心に練習されている方もあり、棋力の向上が見られます。日本棋院の会員である人も多数おりまして、アマ有段、また棋院会員でなくても段棋力の方もおられます。底辺を広げるために、初心者、段位の方々のご入会をお願いいたします。

練習日 毎月第2・第4日曜日
午後1時～5時(変更もあります)

会費 年1,000円
問い合わせ先 萩原輝男 32-2343



Man Watching #109

ポンプ操法大会V2達成!

- ◎1 趣味は?
ゴルフ・釣り
- ◎2 おすすめスポットは?
13町歩のレタス畑から見た浅間山
- ◎3 理想の人は?
広末 涼子
- ◎4 夢・目標は?
小型ポンプ操法県大会出場
- ◎5 まちづくりに一言
みんなに優しい町をつくってください。



Let's try English!

Message FROM
Paul Wellington Harris
(中学校AET)
Vol. 128



The Life of a Comic Book

Hello everyone. Today I want to discuss about the life of an American comic book. I have been collecting comics since before I could read. Not just American comics, but also comics from Japan and Hong Kong. I now have over 5000 comics in my collection. So I consider myself a comic book master.

In Japan, comic books are owned by their creator and the story runs for as long as the artist continues the story. Stories are usually published weekly in 'weekly magazines' made from recycled paper with no color. The artist has full control over his work, and can get money called, 'royalties' for toys and movies made using their characters, but not in the U.S.

The comic book industry is big business in the U.S. It is run by large publishing companies. Comics published by these companies belong to the company and not the artist. The creators of American comics have little control over the books they make and almost never get paid royalties. The size of a U.S. comic is about 170mmx260mm, 22 pages, and they are usually published every 30 days in full-color.

The artists of these comics are a part of a creative team. The first member of the comic book creative team is the 'Writer'. The writer creates the story, usually a story arc. This is why American comics never 'end' in the U.S. When a story arc is finished the writer, or a new writer, thinks of a new story arc. After a 22-page story has been written it is sent to the 'Penciler'. The penciler is the person who draws the comic. He reads the writer's 22 page story and then draws it using a pencil. When the penciler finishes his artwork, he sends the pages off to the 'Inker'. The inker's job is to ink in the artists pencils using black ink. This artist also sets the tone and lighting of the work. After the inker finishes inking the pages they get sent to the 'Letterer'. The letter makes the sound effects and word balloons of the comic, but also checks the writer's story, the pencils, and the inks to decide how to letter the book. Sometimes the letter also creates the actual dialogue of the characters. Finally, the drawn, inked, and lettered pages get sent of to the 'Colorist'. The colorist job is to add color to the comic. When all the coloring is done the pages are ready to be sent to the printer and be published.

A sad thing about the American Comic Book industry is that creator's rights did not exist in the past. Anything that was created by these artists belonged to the company and the artist were never paid royalty for movies, toys or merchandise. But recently this has changed. Stan Lee, a co-creator of Spider-Man, Hulk, Ironman, and other marvel superheroes, was recently given a lot of money for years of royalties and merchandise after a long court battle.

Can you imagine if Toriyama-sensei created Dragonball in the U.S. for Marvel Comics in the 80s? He would have been be a poor and struggling artist in the U.S. with no control over the lives of Goku and the Dragonball warriors! That is what happened to many American comic book artists in the past. But now, gradually, the U.S. comic industry is changing and creators are beginning to have more control and power over their works.

コミックができるまで

皆さんこんにちは。今日はアメリカのコミック本についてお話したいと思います。私は文字を読めるようになる前からコミックを集めています。アメリカのコミックだけでなく日本のものや香港のものもあります。今は5000冊以上もありますよ。だから、私は自分をコミックの師匠だと思っています。

日本では、コミックは作者のものであり、作者が続ける限り、物語は続きます。物語は大抵リサイクルペーパーにモノクロ印刷された週刊誌にて発行されます。作者はそのコミックに対して100パーセントの権力を持っていておもちゃや映画などにそのキャラクターが使われたりすると「著作権」と呼ばれる収入を得られますが、アメリカではそうではないんです。

コミック産業はアメリカでは大きなビジネスです。大きな出版社によって運営されています。コミックは作者でなく出版社によって発行されているのです。作者たちはストーリーに対して権力がほとんどなく、「著作権」というような収入も得られません。アメリカのコミックは17cm×26cmで、大抵オールカラーで30日毎に発行されます。

これらのコミックの作者は作成チームの一員なのです。作成チームの最初のメンバーは「ライター」です。ライターがストーリーを作成します、大抵それはどんどんと続くものなのですが、だから、アメリカのコミックは終わるといことがないのです。あるストーリーのエピソードが終わると、そのライター、又は新しいライターが新しいエピソードを考えます。22ページ分のストーリーが終わると「ペンシラー」に送られます。ペンシラーというのはコミックを実際に描く人のことです。彼は作家が書いた22ページ分のストーリーを読み鉛筆で絵を描きます。ペンシラーが仕事を終わると、今度はそれを「インカー」に送ります。インカーの仕事は鉛筆で描かれたものを黒インクで仕上ることです。この芸術家はトーンや明暗も付けます。インカーの仕事が終わると今度は「レター」に送られます。レターというのは、コミックの吹き出しのセリフや音などをつくる人ですが、作家のストーリーや鉛筆、インクなどもチェックしてどうい書体にするのかも決めます。時にはレターが実際のセリフを作成する場合もあります。最後にインクされ、レターされた原稿は「カラリスト」に送られます。カラリストの仕事はコミックの色付けをすることです。全ての色付けが終わると原稿は印刷所に送られ発行されるわけです。

アメリカのコミック産業の悲しい事は過去作者の権利が一切存在しなかったことです。これらのアーティストたちによって作られたものは会社のものであり、彼らにはおもちゃや映画、商品についての著作権がありません。最近、このシステムが変わりつつあります。有名などころでは、スパイダーマン、アイアンマン、ハルクその他の驚くべきスーパーヒーローを作ったスタン・リーは長い間の裁判によって多くの印税を手に入れました。あなたは80年代に鳥山明先生がアメリカのマーベルコミック会社でドラゴンボールを作ったのならどうなったと思いますか？多分彼は貧しくてゴクウやドラゴンボールの戦士達に対して何の権限もなく厳しい境遇にいたことでしょう。これらは実際にアメリカのコミック作者達に過去起こったことです。しかし、今徐々にですがアメリカのコミック産業は変わりつつあり、作者達が彼らの仕事にたいして権力が持てるようになりました。

先月号暗号文の答え: I will write peace on your wings and you will fly all over the world.
ご意見・ご要望などありましたらこちらにメールして下さいね。: sword_saint76@yahoo.com